

## 編集後記

今年の冬は2月～3月が大幅な高温となり、観測史上最も早い桜の開花が記録された地点が多かったようです。関東平野の西に位置する我が家の畑でも、暖冬と見込んで2月半ば、早めにジャガイモを播種したのが功を奏し、桜の開花に遅れることなく萌芽して、現在、花が咲き終わった品種もあります。狭い菜園の中では、ここ数年で増殖を試みたガラスマメが、一面に可憐な花を咲かせています。薄い青の縞模様が入った旗弁と鮮やかな濃いブルーの翼弁のコントラストが鮮やかで、見ていて飽きません。

一方、残念ながら新型コロナの方は、変異タイプなどによる感染拡大を受けて、4月25日から、東京、大阪、兵庫、京都の4都府県を対象に、3回目となる「緊急事態宣言」を出すことになりました。さらに5月12日からは福岡県と愛知県を加えた6都府県に拡大しています。全世界的な視野で見ると、急速にワクチン接種が進むアメリカでは企業活動が底入れするなど明るいニュースもある一方、インドなどでは感染が急拡大して医療用の酸素が不足するなど、まだら模様の状態のようです。相対的に感染が低いレベルにある我が国でも、医療体制のひっ迫が危惧されています。いずれにしても、国内では医療従事者について高齢者へのワクチン接種が始まったばかりですので、今後、国と地方自治体が連携と創意工夫により、速やかに進捗して欲しいですね。

農水省では、消費者と農林水産業関係者、そして農水省自体を結ぶWebマガジンとして「aff」を発行し、現場レポートやインタビューのほか、暮らしに役立つ情報も満載し、食卓や消費の現状などを発信しています。2月号の特集は「見直そう！豆のチカラ」。多種多様な豆の世界の紹介から始まって、北海道の白花豆など豆での地域おこし、豆の加工品、品種開発の現場などが紹介されています。この「aff」は、令和元年度から、農水省のWebサイトでの配信のみとなっています。豆類時報も2020年9月の第100号から全編カラー化するなど装いを改めたのに続いて、103号からはIT化の進展に対応して（公財）日本豆類協会のホームページを通じてWebマガジンとして提供することとなりました。

今後とも、年4回の発行を継続しつつ、機動的、かつ柔軟な情報発信に努めて参りますので、引き続きご愛読くださるよう宜しくお願いいたします。（矢野 哲男）

---

---

### 発行

公益財団法人 日本豆類協会  
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13  
三会堂ビル4F TEL：03-5570-0071  
FAX：03-5570-0074

### 豆類時報

No. 103  
2021年6月15日発行

### 編集

公益財団法人 日本特産農産物協会  
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13  
三会堂ビル3F TEL：03-3584-6845  
FAX：03-3584-1757

---

---